

爪楊枝を展示することにな  
ったわけ

souki31

## 展示会に出した爪楊枝のお話

---

さてまずは「何故爪楊枝が？」ということから書かないといけないだろう。

さすがに爪楊枝が一本そのまま展示されたわけではない。

「爪楊枝を削って人型にした」というのが評価されたのかもしれない。

そもそもどうして爪楊枝を削ることになったのか。まずはその話から始めようと思う。

きっかけは2008年夏、場所はニコニコ動画(※)にて。

初音ミク(※)の派生キャラのはちゅねミク(※)をどこまで小型ができるのかを競い合うことがニコニコ技術部で流行っていた。

最初は平面だったが、限界まで達したため立体でどこまで小型化できるか……

それを見ていてもたってもいられなくなった自分は早速行動をした。

元となるペーパークラフトがありそれを縮小印刷して組み立てる。これまでも何度かペーパークラフトを作っていたので紙もストックがあったので標準サイズはさくっと完成した。

立体ミク小型化戦争の方はすでに高さ20 mm近くになっていた。動画に載っていた展開図を見ただけでこれは組み立てるのが大変だとは感じた。

しかし組み立てとは別の壁が立ちふさがった。

うちのプリンターでは印刷できない。

そもそも20%までしか縮小できなかった。これだと25 mmぐらいにしかならず、記録更新など無理な話だ。

それならば何回か縮小をしたら……と思ったが、今度は自分のもつ技術が追いつかない。

何回か縮小していったのだが、20 mm以下のサイズとなると印刷がぼやけて作るどころではない。

頭を抱えていたその時、机の前にペーパークラフト作成の際のり付けで使っていた一本の爪楊枝が転がっていた。

「これから削りだしたら20 mmとか余裕じゃないか？」

考えたらすぐ実行。

日常は優柔不断だとか、踏ん切りが付かないと言われている自分ではあるがこういう馬鹿みたいなことについては全く躊躇することもなく挑戦するのが自分らしい。

立体ミク小型化戦争の規則では「自立して」「腕が振れる」とあったので腕にはナイロン糸を入れて動くようにした。

完成してすぐに動画にまとめてニコニコ動画にアップロードした。

### ■10mm立体ミクのような何か～爪楊枝ですけど～

これが第一号となったわけだが、評価は散々だった。

『ミクのようなもの』とか『図工部』とか、それはもう散々で笑ってしまうぐらいだった。心では泣いていたが。

それでも懲りずに投稿を続け、工作・塗装スキルも上がっていった。

最終的に2mmで終了したわけだが、これで自分=爪楊枝という方程式が確立した。

## ■2mm立体はちゅね？～敵は毛細管にあり～

そして「爪楊枝P(※)」という二つ名を視聴者からいただいた。

動画でも『いいんじゃないか？』というコメントが多くなり、少しずつではあるが自信を持つようにはなった。

たかが爪楊枝ではあるが.....

それから暫くした頃だったか。

figumaで初音ミクが発売されることとなった。

ちょうど発売した時、自分は仕事が無い状態でこういうものに金を使うのは躊躇した。

しかし初音ミクのフィギュアは欲しい。

あとは読んでいる方の予想通り、爪楊枝で作ることにした。

8時間ぐらいだっただろうか、こつこつと作業を続けて完成。

途中経過も交えて動画にして、ニコニコ動画にアップロード。

## ■爪楊枝で初音ミクを作ってみた

意外と評判が良く、それからVOCALOIDをメインに爪楊枝で作成していった。

派生キャラも含め現在10体以上の大所帯になっている。

よくぞここまで作ったものだ.....

こうして爪楊枝を削るという馬鹿みたいなことに本気で取り組む馬鹿がこの世に出てきたわけだ。

---

### ※ニコニコ動画

コメントが動画に流れる動画共有サービス。

<http://www.nicovideo.jp/>

### ※初音ミク

ヤマハが開発した技術を元に、クリプトンから発売された合成音声作成ソフト。

声もだが、パッケージのキャラクターもあってニコニコ動画内で急速に広まった。

<http://www.crypton.co.jp/mp/pages/prod/vocaloid/cv01.jsp>

※はちゅねミク

「初音ミク」の派生キャラ。

ネギが持ち物。

<http://d.hatena.ne.jp/keyword/%A4%CF%A4%C1%A4%E5%A4%CD%A5%DF%A5%AF>

※爪楊枝P

「P」というのは「プロデューサー」ということで、アイドルマスターやVOCALOID関係の動画の制作者、または技術部の制作者に付けられる愛称のようなもの。

<http://dic.nicovideo.jp/a/%E7%88%AA%E6%A5%8A%E6%9E%9Dp>

## 展示会のまだまだ前の話

---

話は2009年になる。

何がきっかけだったかももう忘れてしまったが、Twitter(※)を始めた。

夏ぐらいまではあまり面白さが分からず、つまらないことばかりをたまにツイート(※)していただけだった。

変わったのはその年の10月だった。

「戦国オフ」という名のオフ会(※)へ参加したことでTwitterを使った世界ががらっと変わった。

恐らくこの日から自分がTwitterを始めた、と言い換えても良いかもしれない。それぐらい衝撃的なことだった。

どのぐらいすごかったかと言うと、フォロー(※)・フォロワー(※)が倍近くに増えた。

元々少なかったこともあるが、それでも倍と言ったら自分にとっては衝撃的だった。

それ以上に衝撃的だったのが「鹿児島でもオフ会ができるんだ！」ってことだった。

ネットを長く利用していたが、オフ会と言ったらほとんどが首都圏、近くても福岡に集まるものだった。

価値観が一変するのはこのこと、鹿児島という地方でもオフ会ってできるんだ。

自分が幸運だったのは、このオフ会に参加した方々が良い方ばかりだったことだろう。

きっとこの参加者だったから最初の参加でも楽しめたし、今でも付き合いがあるのだろう。

思い切って参加して良かった、そう思うオフ会だった。

そこであった出会いが、つながりを広げて、つながりを広げて、その糸のようなつながりが束になって紐になり...

そうして綱になって展示会になったのだと思う。

ここでこの言葉はどうかと思うが、きっとこの戦国オフでつながった糸は赤い糸だったのかもしれない。

当時のオフ会参加者とは今でも時々会うことがある。

何度も何度も会っているため、たまに集まると「オフ会」というよりは「集まり」となっているのが現状。

ネットの繋がりがリアルの繋がりになっているんだな、と感じる瞬間でもある。

その後何度かオフ会に参加して、そこで出会った方々をフォローして、フォローされて。そういうリアルからネットという最初とは逆の流れもあったりしたのが面白かった。

自分にとってTitterは人と人をつなげるためのツールだったのだろう。それに面白さを感じ、利用が加速していった。

色々な人をフォローして、時間と懐が許せばオフ会に参加してみたりした。

こうして人と会うのが苦手だった自分は少しずつだが人と会うことが楽しくなっていった。

少しずつ、本当に少しずつだが変わっていった。

---

※Twitter

140文字という制限の中で文章を投稿するサービス。

<http://twitter.com/>

※オフ会

ネット(オンライン上)で知り合った人たちが集まる会。  
オフラインだからオフ会。

※ツイート

Twitterに投稿すること。

「つぶやく」と言われるが、こちらの方がカッコいい。

※フォロー

Twitterで自分が購読登録をしている人

※フォロワー

Twitterで自分を購読登録している人

## 展示会というか持ち込みのお話

---

何度目かのオフ会——もう何度か参加して数えるのを止めたわけだが、とあるビアガーデンで行われるオフ会に参加することにした。

何度かお会いしている方Mさんが幹事だったこと、そして戦国オフで知り合い、その後 何度か会って仲良くなったフォロワーのNさんが参加するということだったので参加を決めた。

- そのオフ会の説明のところに書いてあった一文が目があった。
- 色々な人とお話ししよう
- 怖がらなくても大丈夫。みんな「ついたらー」だよ
- お話自信が無いひとは、自慢できる「作品」を持ってきましょう
- 自慢できる「作品」を持っていないひとは、飲みましょう
- 名刺を持ってきましょう
- Poken、Moblie PC、iPad、持ってきましょう
- 「帰宅なう」までがオフ会です
- Ustする予定です。

自慢できる作品か.....

上記のように爪楊枝で作ったVOCALOIDをニコニコ動画にアップロードしていたのだが、時々TLで『実物を見たい』と言われたことを思い出した。

「持って行くかな.....」と。ふと思った。

しかし結構悪い時期だったと思う。何せオフ会はiPadの発売日の翌日。

Twitterユーザの多くはiPhoneを持っているのでMacユーザが多いのは今までの経験で十分にわかっている。

となると持って行ってもどうだろうか？見る人はいるのだろうか？

少し自信が無くなったが、思い切って持って行くことにした。

会場までは遠いので、しっかりと固定できるケースを作成し。バッグに緩衝材を入れて準備完了。

オフ会が始まってから、正確には始まる前からiPadの話で盛り上がる会場。

そして触る自分。やはり新しいものがあると聞いたら触ってみたいと思うのは性(さが)のようだ。

一通り触らせてもらったあとは飯をがつつ食べる。食欲が優先なのは人間の性だ。



結局爪楊枝を出すタイミングが分からず……おもむろに出してみた。

『何これ?』と参加者が食いついてくれたのはありがたかったな。

それから『これ動画で見たやつだ!』とコメントをもらえたのは嬉しかった。

暫くするとビアガーデンに来ていた他のお客さんも見に来て『写真に撮ってもいいですか?』と。

当然のことながら小さくて撮れないわけだが。

それでもそういうことがあったのは嬉しい。VOCALOIDを知らない人達が見ていても「すごい」って思ってもらえるのか。

『セーラームーンだよね?』という意見もあって戸惑ったが、説明をするのも大変だったので「そんな感じですよ」と流してしまった。

今までニコ動というVOCALOIDという文化が染みこんだコミュニティの中でコメントをもらったり、評価をしてもらったりしていたが直接作品を見て、コメントをもらったのは初めてだった。

やはり直接コメントをもらえるのはインパクトが全く違う。

「文字」だけではない、見た人の顔を見ることが出来るのはインパクトの大きさが比較にならない。

直接会って、コメントを聞いて、その人を見るのは大切だ。

その後だった。

シナプスのTさんから『今度スペースを提供するから展示してみない?』というお誘いを受けた。

一緒に名刺をもらったのだが…内心『え、どういうこと?』となっていた。

それはそうだ、突然そんなことを言われて、居酒屋の店員のように「はい、喜んでー!」と反射的に返答できるスキルなんて無い。

何よりもTさん、お酒を飲んで顔が真っ赤だった。

申し訳ないが「酔った勢いなのだろうかー」と思っていた。

今更だがごめんなさい。本当になるとは思いませんでした。



## 展示会の準備のお話

---

オフ会が終わって暫くしてからシナプス・ステーションからダイレクトメッセージが届いた。『爪楊枝を展示しても良いですか?』という内容だった。

.....え、本気だったの?

酔っ払いのTさんが勢いで言ったのかと思ったら、本気だったらしい。

驚いたと言うか、展示させてもらって良いんですかと本当に返そうと思ったぐらいだった。とりあえず話をしよう、ということで後日時間を決めてシナプス・ステーションに向かった。

対応していただいたのは店長のMさんとスタッフのKさん。

Mさんとは初対面だったので緊張したが、少しずつ話を進めていくことができたのはひとえにMさんの人柄だろう。

仕事でしていた商談とはまた違った感じの話で面白かった。

そこで自分は一つの意見を出した。

「自分一人だけではなく、何人かで展示ができないか」

理由はいくつかあった。

一つは自分だけでは集客能力が少ないのではないかという不安。

一つはスペースが小さいためシナプス・ステーションの前を通っても目に入らないというインパクトの無さ。

一つは自信が無かった。

ということで何人かで一緒に展示することになった。

もしかしたら無意識に「これがつながるきっかけになるのではないか」とか思っていたのかもしれない。

今までに参加したオフ会等の経験がそんな考えを自分に焼き付けていたのだろう。

こうして本格的に展示会の計画がスタートすることとなった。

それとオフ会で話が出た缶バッジを作っていたいただいた。

元にした画像は自分のTwitterアイコン。



あとで聞いた話だが、Mさんは自分がどんなものを作っているか知らず、KさんはTさんが本気

で言っているとは思っていなかったらしい。

良かった、戯れ言だと思っていたのは自分だけではなかったらしい。

あとダイレクトメッセージにはMさんの名前が書いてあったのだが、送ったのはTさんだったらしい。

何となくではあったが、この時点で『ああ、愉快的な人達だな』と思ったのはここだけの話だ。

自分はというと、特に準備をする等は無かった。

あったとしたら台座を新調する等だった。

折角の機会なのだからできるだけ綺麗に展示したいのは親心なのだろう。

これから何か作っている人達に声をかけた。たった2人だったが、出しても良いという方がいてほっとした。

自分以上に大変だったのはシナプス・ステーションのスタッフの方々だっただろう。

本当に大変だったと思う。

企画を立てて、ポスターを作り、配布物を作り、紹介の動画を作り。それらを通常業務の中でされたのだからどれほど大変だっただろうか.....

こうして日程が決まり、展示物の内容が決まり、「題名のない展示会」という名前が決まり。

日に日に盛り上がっていった。

どういものになるか楽しみにしつつ一日一日過ぎて行った。





## 展示会でできた出会いのお話

---

展示が始まってまず変わったのが、金曜日にシナプス・ステーションに行くという習慣が加わったことだった。

参加者のKさんはバルーンアーティストで、金曜日になったら土日用にと作品を作りに来られる。

この時に初めて知ったのだが、バルーンアートというのは2~3日ほどしか持たないらしい。考えてみれば風船なのだから日持ちはしない。ナマモノと一緒になのだ。

こうして金曜日はその作品を見に行くことが習慣となり、Kさんとも話をしたりするようになった。

「題名のない展示会」が無ければ一生出会うことが無かっただろう。

縁とは不思議なもので、何の接点も無かった人達がつながっていくわけだ。



バルーンアートを見に行くのも目的の一つだったが途中から目的が一つ増えた。

それはUstreamの配信の手伝い。

シナプス・ステーションはプロバイダのサービスセンターなのでインターネット回線は言うまでも無く、機材もばっちり揃っている。

主に設定の手伝いとかだけではあったが、何かすることがあるのはありがたかったし、楽しかった。

何よりKさんと話をする機会もできたのがありがたかった。『こういうことがあるんだけど』と話をされたり、『風船にちょっと顔を描いて』とUstreamをしている時に風船に顔を描いたりしてコラボもさせていただいた。

違う分野の人と話をするのはそうそう多いものではない。

ものを作る、という共通点はあるが素材は爪楊枝と風船と全くの別物。

しかし共通点もあった。

「単純化して表現すること」

これは両者に共通することだったと自分は思う。どこまで省略していくか、どこを省略してはいけないか。そこを見分けるのは両者ともに重要なこと。

作っているのを見ていると「ここは省略したりするのか」とそういう目線で見ること多々あった。

毎回刺激だらけ。本当に刺激に満ちあふれる日々が続いた。

こうして何度かKさんとちょっとしたコラボをしている間にふと言われた一言。

『爪楊枝フィギュアはすごいんだからTEGE撮(※)に出してみない？』

え？本気ですか？さすがに今度は酔っ払いの戯れ言ではないようだ。



## 展示会がテレビに出たお話

---

かくしてKさんの行動力でテレビに作品が出ることになった。

番組は「TEGE2(※)」。MBCで不定期に放送されている番組で、鹿児島ローカル番組の一つ

。

この番組もTwitterをしており、生放送中にツイートが読まれるためTwitterユーザがよく視聴している印象がある。ハッシュタグ(※)を使ってどんなツイートがあるのか見ることが出来るのもおもしろさの一つなのかもしれない。

そしてSR2(※)が「裏てげ」と称して番組を見つつ生放送をしているのもそれに勢いをつけているのだろう。

KさんはそのTEGE2の投稿動画コーナーに送るということだった。

後日、TEGE2のアカウントからDM(※)が届いた。

『TEGE撮のコーナーにて紹介してもいいですか？』

.....本当に送ったんだ、Kさん。

こんな機会は今後無いかもしれない、ということで速攻でOK。

それから何度かDMのやりとりをして展示のことなどを話をした。サイズとかいつぐらいからしているのか等。

まさかTwitterでテレビ局の人とやりとりをするとは思わなかった。

本当に人がつながっていくと、どこにつながっていくか分からないものだ。

2010年8月12日。放送当日。

その日、県外にいたのだがご近所さんの好意でケーブルTVを使ってTEGE撮のところだけ見ることができた。

本当に流れた。テンションは一気にうなぎ登り。本当に出てる、出てるよ！

最後に「題名のない展示会」の告知も流れた。

言葉にならない嬉しさがわき出てきた。一体どれだけの人が見ていたのだろうか。

Twitterやニコニコ動画というネットから、ついには公共の電波に乗ってしまった。

嬉しいやら恥ずかしいやら。ネットから飛び出してこういうことになるとは。

爪楊枝でこういうことをしていると知っている友人から『なんかテレビに出ただけど、どういことだよ』とメールがきたり、何も知らない友人から『この前のTEGE2でさ、爪楊枝でミクを作ってる馬鹿がいて』と言われたりして褒められた。自分が作ったということは伏せておいたが.....

ちなみな自分にとっては褒め言葉だ、馬鹿という言葉は。

一生懸命馬鹿なことをしている自覚はあるのだから、馬鹿みただというのは褒め言葉以外の何者でもないだろう。

---

## ※TEGE2

MBCで不定期に放送しているローカル番組

<http://www.mbc.co.jp/tv/tege2/index.html>

## ※ハッシュタグ

Twitterで使われるもので「#」の後に半角英数を入れることで情報共有が出来る仕組み。  
使ってみないとどうもわからない仕組みの一つ。

## ※SR2

薩摩川内市から放送しているウェブラジオ局。

「映像が流れているけど.....ラジオ？」なんてツッコミは無粋。

<http://www.sr2.biz/index.html>

## ※DM(ダイレクトメッセージ)

Twitterで公開せずに各個人に送るメッセージ。

## 展示会でUstreamした時のお話

---

とある日。爪楊枝を削る道具(※)を持ってシナプス・ステーションに向かった。

ちょっとしたものをライブ作成できないかということで話をいただいたのでその実施のため。デザインナイフ、塗料、筆など本当に最低限のものしか持って行っていなかったので作るのは骨が折れた。

この経験は後でまた役立つわけだが.....

考えてみたらライブで作るのはこれが二度目か。一度目はたこ阪にてデザインナイフ1本でタコを作った時。二度目がこれ。

彫ったものはポティカおじさん(※)。鹿児島でTwitterをしている人であれば大抵フォローされているだろうあのコアラ。



時間があまり無かったこともあり、今回は結構省略して作成をすることにした。

それでもポイントは押さえたからか『ポティカおじさんにちゃんと見える』というコメントを頂いたのでありがたかった。

しかもポティカのスタッフが来られていたので最初は少し緊張してしまった。何度かお会いしていると言っても目の前で作るとなったらそれは緊張するわけで。

むしろ下手なアレンジとかできない——という方が個人的には問題だったわけだが。

実はこの様子はUstされていて、事前に「ライブで作成をする」とTwitter上で告知をしていた。すると当日は何名かのフォロワーさんがわざわざ作業を見にシナプス・ステーションまで足を運んでくださった。

見に来た方々と話をしつつ作成をしたのだが、次第に緊張の糸もほぐれ、30分過ぎたぐらいになると軽口を叩きつつ作ることが出来るように。

元々夜に毎日のようにUstreamでプラモ作成の様子を流していたので、慣れていたことが幸いしたのだろう。

頭と胴体は1本から削りだし、腕は幅が足りなかったので別の爪楊枝から削りだして接着。耳は薄切りにしたものを整形してから接着。時間が足りなかったため杖は省略。

そして出来たのが立体では現在最小のポティカおじさん。

作った立体ではこれが3体目となる。紙粘土と比べると小さいので同じ立体として良いか。

こうして無事に爪楊枝を削るという前代未聞の生放送をシナプス・ステーションでポティカお



じさん作成を無事に終了することができた。



ちなみにこの後2回目のライブ作成をすることになった。

お題は特に無かったのだが、Kさんが以前Ustreamで作成した時に『ピカチュウ』という話が出ていたこと。それとAさんが作っていたポケモンの粘土細工が人気だったこともありピカチュウを作ることにした。

さすがにVOCALOIDだけでは子どもが見に来たい！とは思わないだろうし.....

そもそもVOCALOID自体が一般に浸透していないので.....

ポティカおじさんで一度リハビリをしていたこと、その時に準備不足だったことを反省しほとんどの道具を持参して作業を始めた。

胴体は1本から削りだし。

耳は薄切りから切断して細切りのものを接着。

しっぽは薄切りから切り出し。最初は接着して組み合わせることも考えたのだが、難易度は上がるのに見栄えが良くないと判断して切り出しにした。

この2回とKさんのバルーンアートのUstreamで「ものづくりを生放送する」ということのメリットがある程度は証明されたのではないかと思う。

基本的にもものを作るのは地味な作業が多かったりする。バルーンアートはどうか分からないが、少なくとも爪楊枝を削るなんて作業は地味な作業の連続なのは確かだ。

その地味な作業でも最後まで見てくださる方が何名かいらっしゃったことには本当に感謝。

今回のUstreamだが、一つ面白いことが分かった。

何名かシナプス・ステーションに来てくださったのだが、目的が分かっていた気がする。

一つはそれこそ「爪楊枝を削るところを見たい」というUstreamで流す内容を直に見たいという人。

一つは「自分に会いたい」という人。

意外だったのは後者の方だった。なんだろう、ちょっとした有名人になった気分だった。後で『有名人に会ったみたい！』と言われるのだが.....

Ustreamでは顔を出したりしないで活動していたので、顔を見るのであれば実際に会うのが手っ取り早いのだろう。

人前でUstreamをすると、ある程度だが集客効果があるようだ。

これに似ているのはテレビの一般観覧席だろう。

通信媒体はインターネットか放送用の電波かという違いがあるが、放送を流すという面では大した違いは無いように思える。

つまりUstreamは「手軽に発信出来る」メディアなのだが、視聴者からすればテレビと同様の感覚で見ているのかもしれない。

---

#### ※爪楊枝を削る道具

自宅で作成する時には結構いろいろと使っているが、主に以下のようなもの。

- デザインナイフ
- 紙やすり
- ピンセット2種類
- コンパスの針
- ボールペン
- ペンチ
- 瞬間接着剤
- 工作用ボンド

#### ※ポティカおじさん

淵上印刷が経営しているブログポータルサイトのマスコットキャラクター。

本名・家族構成不明という謎が多いジェントルマン。

<http://www.potika.net/>

## 展示会が終わったあとのお話

---

さて、展示会で色々あったわけだがその後も色々あった。

今回の展示とは直接関係がないのだが、なぜか産経新聞に掲載されることになった。  
Web版と紙面とで。

### ■【ネット番記者】“手”クノロジーなミク - MSN産経ニュース

<http://sankei.jp.msn.com/economy/it/100819/its1008190810002-n1.htm>

自分の中ではちょっとだけ取り扱われるのかな？などと思っていたのだが、意外と大きく出てきてびっくりした。

文面については賛否両論ではあったが、取り上げてもらっただけでもありがたい。  
地味なものだし、そこまで映えるものではないだろうし。

さて、それじゃ今度どうするかなのだが.....実は、と言っても説得力は全くないな。予定なんて立ってもいない。

諸事情で仕事を辞めることになってしまったので、時間的には余裕が出来た。  
その時間を使ってこうしてまとめているので、有意義に時間を使っている方だろう。  
寝て飯を食って、という生活になっていないだけマシと思うことにする。

最後になるが、自分は特に成功した人ではないと思う。

爪楊枝細工を作り始めてもう2年ぐらいになるが、それまではほとんど騒がれもしなかった。  
ニコ動という中ではちょっと話題になった方かもしれないが.....

Twitterを始めて、オフ会に出て、そこに偶然居合わせたTさんから声をかけていただいて、一人ではつまらないだろうからと周りを巻き込んで、展示会という形になった。

おそらく何か一つ欠けていてもこんなことにはならなかつただろう。  
そういう意味では周りにすごい人たちがいて、恵まれていただけのことだと思う。

ほんと人生ってよくわからないものだね。